

平成二十二年 度（一次入試）

# 国語

（検査時間 十時三十五分～十一時二十分）

## 注意事項

- 一、開始の合図で
  - ◆ 解答用紙、問題用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を書き入れなさい。
  - ◆ 解答はすべて解答用紙の所定の欄に書き入れなさい。
  - ◆ 問題文は五ページあり、その順序は **国1**、**国2**、**国3**、**国4**、**国5** で示しています。ページ漏れや印刷不鮮明などに気づいた場合には、手をあげなさい。
- 二、終了の合図で
  - ◆ 机の上に、下から順に問題用紙、下書き用紙、解答用紙を置きなさい。解答用紙だけは裏返して置きなさい。

受験番号

【三】 次の①、②の文章を読んで、下の問一～問五に答えなさい。

① 今様のことどもめづらしきを、言ひひろめ、もてなすこそ、また  
(最近の珍しいてきことを) (もてはやすことは)

うけられね。世にことふりたるまで知らぬ人は、心にくし。今さらの  
(賛成できない) (心がひかれる) (初めての)

人などのある時、ここもとに言ひつけたる言ぐさ、物の名など、  
(自分たちの仲間だけで使い慣れている話題や)

心得たるどち、片はし言ひかはし、目見あはせ、笑ひなどして、  
(同士が) (一部分を)

心知らぬ人に心得ず思はすること、世なれず、よからぬ人の、必ず  
(事情を知らない人に) (世間知らずで、教養のない人が)

あることなり。

② 何事も入りたたぬさましたるぞよき。よき人は、知りたること  
(深くは知らないふりをして)

とて、さのみ知り顔にやは言ふ。よくわきまへたる道には、必ず、  
(そうむやみに知ったかぶって話すだろうか)

口重く、問はぬ限りは言はぬ ( a ) いみじけれ。  
(言葉は慎重に) (立派なのである)

(「徒然草」第七十八段、第七十九段から……一部省略等がある。)

問一 線①を現代かなづかいになおし、すべてひらがなで書きなさい。

問二 線②の現代語訳として最も適当なものを、次のア～エのうちから  
 一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 時代とともに老いていくまで イ 実際に手に触れてみるまで  
 ウ 世の中で古びてしまうまで エ 世間から消えてしまうまで

問三 線③は、何の「一部分」か、「の一部分」につながる形で、本  
 文中から十六字以上二十字以内で書き出しなさい。(句読点も一字とする。)

問四 空欄 ( a ) に当てはまる、意味を強めるはたらきをする語を、①の  
 文章中からひらがな二字で書き出しなさい。

問五 上の二つの文章について、先生とAさんは次のような会話をした。これを  
 読んで、後の(1)～(3)に答えなさい。

先生——この二つの文章は、どちらも、人と交わる際の態度や心構えに  
 ついて、作者の I が、自分の考えを述べたものです。①  
 の文章では、二つの態度について批判をしています。

Aさん——一つは、目新しい出来事をむやみにもてはやす態度、もう一つ  
 は、II 態度についてですね。

先生——そうですね。また、②の文章では、詳しく知っていることがら  
 についても、人から尋ねられるまでは、黙っている、控えめな  
 態度が立派だと述べています。

Aさん——私は、その部分を読んで、今後、知識をむやみにひけらかさな  
 いようにしていきたいと思いました。

(1) I に当てはまる作者名を漢字で書きなさい。

(2) II に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エのうち  
 から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 仲間だけが使い慣れている言葉を、初めての人の前に無理に使わせようと  
 する

イ 仲間だけが使い慣れている言葉を、初めての人の前でわざと使おうと  
 する

ウ 仲間だけが使い慣れている言葉を、初めての人が間違えて使うのを喜  
 ぶ

エ 仲間だけが使い慣れている言葉が、初めての人の前に当然通じると決めつ  
 ける

(3) 線のような意味を表すことわざとして最も適当なものを、次のア  
 ～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 雉も鳴かば撃たれまい イ 郷に入っては郷に従え  
 ウ 船頭多くして、船、山に登る エ 能ある鷹は爪を隠す